

特 定 非 営 利 活 動 法 人

かきつ畑^{ばた}♪

令和4年 9月

知立市の農業の現状

1 市域 : 16 : 31 km²

2 市内の農地面積の推移

H25 : 430ha

H29 : 409ha 市内総面積の訳 25%

R 元 : 398ha

減少中!!

残りわずか!

3 利用集積率 約 52% (R2.3 時点)

4 認定農業者数 : 7 名^{大ピンチ}

・ 水 稲 4 名

・ 施設野菜 2 名

・ 酪 農 1 名

かきつ畑プロジェクトとは??

「農地を農地として活用し続けるための、知立らしい仕組みづくり」
「生産者と消費者をつなぐサイクルの構築」

農地の保全・維持

農を通じたコミュニティ形成

地域への愛着

消費

生産

農・食への関心喚起

まちづくりの問題解決

農・食への意識醸成

令和2年度～現在

まちづくりに関わる一般市民

農業団体等

NPO 法人かきつ畑

いろんな団体・組織農と農の分野を越え連携する

小中学校

いろいろな団体・組織と連携

かきつ畑プロジェクト推進協議会
(令和3年度～)

都市農業共生推進等地域支援事業
(農林水産省農山漁村振興交付金)

知立市役所：経済課

H29～30年度の取り組み

◆活用した交付金事業

【都市と緑・農が共生するまちづくりに関する調査】（国土交通省・農林水産省委託事業：H29）

受託者：知立市小規模農地等活性化協議会（構成員：知立市・農業委員会・農事組合法人・アグリ知立・都市農地活用支援センター）

調査テーマ：「小規模都市農地の活用保全に資する多様な担い手育成システム構築実証調査」

成果：体験農村の開設、かきつ畑♪プロジェクト誕生

【都市農業共生推進等地域支援事業】

（農林水産省農山漁村振興交付金：H30～31）

構成員：知立市・農業委員会・農事組合法人・学識経験者・明治用水土地改良区・まちづくりコンサルタント）

実施主体：知立市都市農業共生推進協議会

事業成果

1. 農への関心喚起（シンポジウム開催）
2. 生産と消費のサイクル作り（軒先販売スタンドの製作・設置）、
3. 「地域の食講習会」の開催

◆職員プロジェクト

【H29：小規模都市農地活性化プロジェクト】

様々な分野での農地活用方法を検討

構成員：中堅職員 11人

（農政・福祉・長寿・子ども・防災・環境・健康増進・商工観光・学校教育・都市計画）

成果：農地を使いたい人と農地所有者のマッチング制度の企画提案（未実施）

【H30：まちなか農知プロジェクト】

市内農地での生産物の消費方法の検討他

構成員：中堅職員 7人

（農政・企画・防災・教育・都市計画）

成 果

小学生向け小冊子の作成、米カフェ「Repos」（中央公民館内喫茶室）のプロデュース、小学校での授業

～「かきつ畑♪プロジェクト」から「NPO 法人かきつ畑♪」へ～

R2年度の取り組み

NPO 法人かきつ畑♪の設立（令和2年10月22日） 知立市都市農業共生推進協議会事業 継承

背景

農及び都市の活性化に関する事業を行い、農を”ツールとして”まちづくりやコミュニティ希薄化に係る問題解決を図り、農への理解の向上と地域の活性化に寄与するため、以下の事業を実施することを目的に設立

事業内容

1. 寺子屋塾
2. 農産物の6次化
3. 生産者と消費者の交流を図る
4. 農を通じた学びの場の提供
5. 担い手マッチング



R3 年度の取り組み



point

ローゼルの特産品化



point

農マルシェの開催

Main task

農産物の 6 次化に向けた取り組み

生産者と消費者の交流に向けた取り組み

農を通じた学びの場の創造に向けた取り組み

都市農地貸借法の適用に向けた取り組み



point

地域住民による体験農場の運営



point

生産緑地の取り扱いについて
追加指定の可能性を探る

R3 年度の取り組み



◆学校連携

◇小学校との連携

- ①校外田んぼの活用⇒学校区を中心とした「地域住民」で田んぼを守る、活用する
- ②校内に「田んぼを作るプロジェクト」⇒子ども達が農に必要な水や土について考える

◇高校との連携

- ①ローゼルを使用したレシピを高校生が考案し学校給食で提供（令和3年11月15日～19日）
- ②ローゼルの広め特産にする活動（第3学年総合的な探求のテーマ）



◆都市農業共生推進等地域支援事業（農林水産省農山漁村振興交付金：令和3～4年度）

実施主体：かきつ畑プロジェクト推進協議会（構成員：NPO 法人かきつ畑♪・地域団体・食品加工業者・知立市・農業委員会・JA）

◆都市農地貸借法の適用 生産緑地 約 500 m²について、市内初めての適用。



NPO 法人かきつ畑♪ 令和4年度の新たな取り組み

Hot

◆学校連携

畑 de 学校の実施

目的

知立市内の小中学生を対象に、農産物（大根）を育て収穫するまでの一連の農体験の機会を身近に作り、農産物の加工（切干大根）や商品化（メンチカツ）を通して食や農への関心を高め、地産地消や食物の大切さに気づくきっかけの場とする。

また、保護者に対しては、子どもを通して都市部にある知立市の農地や農のあり方、生産者と消費者がお互いに理解し、共存していくことの大切さに気づく機会とする。

そして、都市農地の持つ多面的な価値を周知することで、食や健康といった視点から、普段は農と関わりのない人も農に関心をもち、持続可能なまちづくりに大切な農への理解を深めることを目指す。

活動内容：野菜の栽培及び収穫、販売体験、調理体験等



NPO 法人かきっ畑 ♪ 今後の取組み

消費者が多いまちだからこそ、「農」の多様さ、多機能のメリットがある



知立の立地条件、地域性を活かす都市農業

1

子どもの反応は素直。楽しいかどうかを判断する基準ともなる。



楽しくなければ伝わっていかない。伝え方、見せ方を大切にする。

2

今までの取組経験から、子どもを通じて発信することが遠まわりのようでも効果的！
子どもからの発信の効果は絶大！



教育と連携した取組みを大切にしていく。

3

いろいろな視点から「農」にふれるきっかけを提供
食、科学、健康・・・どんな分野も「農」は関係する。
昔は「農」が生活そのものだった。



「農」は生活全般に影響、まちづくりの各課題の解決へ

4

unify

「農業」として考えるのではなく、「農」を身近なものとして考え、身近にあるものとして気づくきっかけを作っていく

「農」を生業としている人がいて、農産物が生まれる。

「農」を身近なものとして、なくてはならないものとして理解する。

「農」と「人」が共に生きる「まち」を創っていく。



ご清聴ありがとうございました